

■明日から冬休み

明日から冬休みになります。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、例年の冬休みと異なり、クリスマスやお正月の初詣など、外出を控える動きも見られるかと思えます。感染防止に努めながら、少しでも楽しく充実した冬休みにしてほしいものです。



今年度の2学期は、昨年度のような台風による休校もなく、授業も順調に進んだのではないかと思います。特に成績が振るわなかった教科・科目については、この冬休み中の冬期講習なども活用しながら、徹底的に復習し、苦手克服に努めましょう。なお、冬期講習を受講する者は必ず予習・復習にしっかりと取り組み、学力の向上、定着を図ってほしいものです。冬期講習がない諸君もいますが、計画的に少しでも学習する習慣をつけておくように心がけましょう。後にも記しますが、3年生で大学受験を控えている諸君は、追い込みの時期です。残された時間を大切にしてください！！

では1月7日(木)の始業式に元気に登校してくることを期待しています。

■3年生の進路決定状況

12月15日(火)現在の3年生の進路決定状況です。いよいよ大部分は1月以降の大学の一般入試の結果を残すのみとなりました。健闘を祈ります！！

【12月19日現在】

	大学	短大	専門学校	就職	その他	合格・内定
決定者数	74名	7名	29名	26名	4名	140名
希望者数	92名	7名	35名	28名	4名	166名

■大学の一般入試に向けて

1月16日(土)～17日(日)の大学入学共通テスト以降、大学の一般入試が本格化していきます。それに向けて、学習面、生活面について、最低限のことですが、アドバイスしておきたいと思えます。少しでも参考にして、悔いの残らない受験にしてください。なお、今年度は、例年と異なり、新型コロナウイルス感染拡大の防止対策が取られるケースも多々あることでしょう。受験校の入試情報をよく確認して本番に臨みましょう。



〈学習面〉

- 教科・科目にもよるのですが、基本的には、これまで積み上げてきたものを信じて、例えば、英語であれば、単語集・熟語集、文法問題集、構文集などを繰り返し徹底して復習してみましょう。問題集や模試などでミスしたところにマークなどを施しているのであれば、そこを徹底して確認するというのも方法です。また、日本史や倫理・政経などは、直前まで追い込みが効く場合があります。最後まであきらめずにがんばりましょう！！
- 実践的な問題（赤本など）に取り組む場合は、自信を失わないように注意しましょう。もしできなかった箇所があれば、必ず解答・解説にじっくりと目を通して、よく確認しておきましょう。分からないままにしておくのは、最もまずいことです。

〈生活面〉

- どうしても夜遅くまで学習する習慣が身についてしまっている人が多いと思いますが、人間の脳は、起床してから3時間以上たたないとしっかりと働かないとも言われますので、実際の入試に向けて、冬休みのうちから、試験開始の時間から逆算して早起きする習慣をつけておきましょう。
- 暴飲暴食は避け、規則正しい生活をするように心がけましょう。当然、風邪やインフルエンザ、感染性胃腸炎なども要注意ですが、何よりも今年度は新型コロナウイルスに感染しないよう、十分に対策をして試験会場に行くようにしましょう。日々の体調管理を怠らず、万全の健康状態で臨みましょう。

〈試験当日〉

- 最寄り駅周辺は多くの受験生で混み合うことが考えられますので、早めに会場に到着できるよう、若干、余裕を持って出発するように心がけましょう。東京都内の大学を受験する場合、同じ駅に複数の大学があるケースもありますし、大学の建物が乱立していて、「会場がどこか分からない」と迷ってしまう場合もあるかもしれません。多くの生徒がスマートフォンで位置情報を確認しながら、会場に向かうものと思われませんが、受験会場を間違わないよう、注意してください。多くの受験生に圧倒されないことも大事です！！

〈大学入学共通テスト情報（UNIV PRESS NEWS 特別号より）〉

- 確定志願者数は総志願者数が53万5245人で、前年のセンター試験より2万2454人（4.0%）の減少となった。内訳は高校等卒業見込者（現役生）が44万9795人で2440人（0.5%）減とほぼ横倍。高校等卒業者（既卒者）は8万1007人で1万9369人（19.3%）の大幅減。その他（高卒認定等）が4443人で645人（12.7%）減だった。2021年度共通テスト利用大学は706校（国立82校、公立91校、私立533校）で、過去最多だった前年のセンター試験と同数となった。

■ 日本学生支援機構の結果通知について

3学年の保護者の皆様には、classiでもお伝えしましたが、6月もしくは7月に日本学生支援機構奨学金の予約採用を申し込んだ3年生諸君に結果通知を12月4日（金）に配付しました。まだ結果が届いていない諸君には、遅くとも2月中には届くものと思われます。入学手続きで必要になる人も多いかと思いますが、事情を進学決定先の入試担当者に伝え、待っていただくようお願いいたします。予約採用の申込みをしなかった諸君で、申し込みたい場合には、入学手続きの際に、進学決定先の入試担当者にご相談ください。高校側の役割は、予約採用の結果通知をお渡しするところまでですので、ご承知おきください。今後、不明な点がある場合には、進学決定先の入試担当者、もしくは日本学生支援機構に直接お尋ねいただきますようお願いいたします。



■ 入学事前課題、生徒の不安の声

校長室前の合格大学等の名前の札を見てもらえれば一目瞭然ですが、12月中旬までに多くの3年生諸君が進路先について合格・内定を得ています（あとは基本的に大学等の一般受験を残すのみです）。総合型や学校推薦型で大学に合格した生徒に対しては、課題が送られてくるものと思われます。ある生徒から下記の相談を受けました。



「大学から家に入学事前課題が大量に送られてきました。こなせるかどうか心配です。特に英語の課題が多く、その出来具合でクラス分けがされるそうです。入学してから授業についていけるか不安で仕方がないです」。

大学では各学部学科で専門性を身につけると同時に、幅広い教養も身につけさせたいということで、人文科学、社会科学、自然科学の各分野から2~3科目ずつ教養科目を履修し、さらに語学などを履修することも卒業の条件になります。例えば、英語が苦手な生徒で法学部法律学科への進学が決定している生徒などは、「公務員を目指して法律の勉強をしていくことは楽しみだが、英語の授業についていけるか不安」と感じたりしているのかもしれませんが。英語や数学などは、中学レベルも怪しい・・・という生徒は、本当に基礎の基礎を身につけないと、大学で相当苦勞することが予想されます。リモートで授業が行われる可能性もありますからケースバイケースですが、いろいろ不安を感じている人は、大学に入学したら、欠席しないように心がけること、授業担当の先生に積極的に質問に行くなど、顔と名前を覚えてもらうことをお勧めします。

近年は、筆者が受験生だった頃と比べて、大学に合格すること自体は選ばなければ難しくなくなりましたが、「授業についていけない」などの理由で退学してしまう人が多いのが、進路指導を担当していて残念に思うことです。せっかく多額なお金をかけて入学したのですから、簡単に辞めてしまうのではなく、何らかの資格を取るなどして、社会に巣立って行ってほしいと願っています。そのためにも、一定程度の基礎学力をきちんと身につけて入学することが大切であると感じています。一定程度の基礎学力とは、各教科の教科書の内容をきちんと理解しているというのが一つの指標になるでしょう。

■この1年を振り返って



この1年を振り返ったときに何が浮かんでくるかと言えば、やはりコロナウイルスのことになるでしょうか？ 昨年12月に中国の武漢で「新型コロナウイルスに感染した人が出た」というニュースが流れて以降、まさかここまでの話になるとはみなさんも想像していなかったことと思います。もちろん筆者も、「ウイルスは怖い」という認識を多少は持ち合わせていたものの、「緊急事態宣言」が全国に出され、学校が1か月以上にわたって臨時休業になるなどとは想像もしていませんでした。当時は、「第二次世界大戦（1945年）後初めて」とか「世界恐慌（1929年）以来」という言葉が頻りに飛び交いましたが、本当に異常事態が続きましたし、「新しい生活スタイル」ということも叫ばれるようになりました。今後も長く、マスク着用などの新しい生活スタイルが続いていくのか等、さまざまな見通しが立たないことへの不安や苛立ちが募りますね。

3月から5月にかけてこのコロナウイルスの問題が拡大していった際、筆者はウイルスの存在を知らずにウイルス（黄熱病の黄熱ウイルス）と格闘していた野口英世のことがふと脳裏に浮かんでいました。野口英世については今さら説明はいらないかもしれませんが、現在の猪苗代町出身の細菌学者です。幼名を清作といい、1歳のときに母親が畑仕事をして目を離している間に囲炉裏に落ち、左手に大火傷を負いました。小学校のころは左手の火傷のことでいじめにも遭いましたが、貧しい中でも人一倍勉強に取り組み、周囲の助けもあって「医学」の道で生きていくこととなります。最終的には細菌学者になりますが、彼が「医師になりたい」と思ったのは、会津若松で開業していたアメリカ帰りの医師・渡部鼎（わたなべ・かなえ）のもとで左手の手術を受けて成功し、感激したからだと言われています。

野口は晩年、黄熱病研究のためにアフリカ大陸のガーナに渡り、研究中に自らも黄熱病に冒され、「（黄熱病に効くはずの野口ワクチンが効かないため）僕には分からない」という言葉を残して亡くなったと言われていますが、黄熱ウイルスは野口が使用していた光学顕微鏡では見つけられず（注：微小すぎて見えないとのこと）、野口の死後に開発された電子顕微鏡でその存在を確認できるようになったそうです。人命を救うため、（結果的に）「見えないもの（＝ウイルス）」と格闘していた野口はどのような心境だったのだろうかこの事実を知った子どものころ、想像したことがあります。その心境は、今現在もコロナウイルスのワクチンの開発等にあたっている研究者の方たちに一脈通じるものがあると言えるでしょう。

さて、筆者がこの2か月くらいの間に見たスポーツ中継の中で、全日本大学駅伝で6年ぶり13回目の優勝を果たした駒澤大学の田澤廉選手や関東大学ラグビー対抗戦の慶應義塾大学戦で勝利を収めた早稲田大学の主将・丸尾崇真選手が口々に「新型コロナウイルス感染拡大の問題がある中で、大会を開催していただき感謝します」との言葉を述べていたのが印象的でした。特にラグビーは、「密集・密接」する競技であり、伝統の一戦である早慶戦も含め、大会開催を危ぶむ声が多かったものと思われますので、試合ができることへの喜びはひとしおだったことでしょう（※先日、同志社大学ラグビー部で感染者が出て、全国大学ラグビー選手権への出場を辞退することが発表されましたので、なおさらですね）。この新型コロナウイルス感染症については、先月辺りから第3波が押し寄せ、拡大の傾向にあり、福島県内でも福島市でクラスターが発生するなど油断できない状況にあります。再び辛抱のいる生活が続いていくものと思われますが、何とか協力し合って乗り切りましょう！！

文責：清水聖（進路指導主事）